



平成26年度
(2014年度)

業 務 年 報

Annual Report for the year 2014

(平成 28 年 11 月)

地方独立行政法人 青森県産業技術センター野菜研究所

Local Independent Administrative Institution

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

Institute of Vegetable Research

平成26年度 業務年報 目次

	頁
I 試験研究	1
1 試験研究課題	1
2 試験研究概要	5
3 主要な野菜・畑作物の生育状況	10
4 気象表・図	12
II 試験研究成果・普及情報の公表及び研修・技術協力	15
1 試験研究成果・普及情報	15
(1) 普及技術情報	15
(2) 刊行物	16
(3) 学会・研究会	16
(4) 試験研究成果発表会	17
(5) 一般雑誌・普及誌・新聞・テレビ・ラジオ	17
(6) 表彰	18
2 研修・技術協力	19
(1) 農業ドクター	19
(2) 講師派遣	19
(3) 審査員派遣	20
(4) 会議・研究会	21
(5) 視察受け入れ	23
(6) 研修受け入れ	23
III 職員研修	23
1 国内研修	23
2 県・産技研修	24
IV 種苗の生産と配布	26
1 作物の原原種の採種	26
2 作物の原種の採種	26
3 種苗等の配布	26
V 総務	27
1 位置・土地・建物	27
2 所掌事務・分掌事務	27
3 組織・職員	27
4 事務分担	28
5 予算	32
VI 圃場利用図	35

1 試験研究課題

(1) 栽培部

	課 題	細 目 課 題	研究期間
野菜	青森ブランド野菜の高品質安定生産技術の開発(開発研究)	1 ナガイモの高品質安定生産技術の開発 (1) ナガイモ栽培技術改善試験 ア 土壌消毒処理の有無と適正施肥窒素量の把握 イ 高支柱栽培の適応性評価 2 ニンニクの新作型開発による安定生産技術 (1) 珠芽を利用した新作型開発試験 (2) 品質低下要因の解明と抑制技術の開発 ア りん片の形態異常発生条件の把握 イ 乾燥による「煮え」等障害発生条件の把握 3 夏秋どりイチゴの高品質安定生産技術 (1) 良食味四季成り性イチゴ「なつあかり」の安定多収技術の確立 (2) 主要四季成り性品種の好適栽培法の開発	平26～30
	ナガイモ「園試系6」の収量・品質向上に向けた施肥の改善 (県重点事業「ながいも産地生産力レベルアップ事業」)	1 「園試系6」の品種特性を發揮できる土壌・地域別施肥基準の作成(現地試験) 2 省力施肥法の検討 3 土壌の簡易地力窒素診断法の実用性評価	平26～27
	ニンニクの流通過程での品質低下要因の解明と対策技術の確立 (県重点事業「青森にんにく安心技術確立事業」)	1 氷点下貯蔵後の品質に及ぼす栽培条件等の影響 (1) マルチの種類、成熟度が貯蔵品質に及ぼす影響 ア マルチの種類、種りん片重が収穫期の早晩に及ぼす影響	平26～27
	良食味夏秋イチゴ「なつあかり」による青森県高付加価値技術創出実証モデル(県重点事業「青森県高付加価値技術創出実証モデル事業」)	1 プレミアムなつあかりの創出 (1) なつあかり果実高品質化のための要因解析	平26～27
	冬の農業生産体制の強化(県事業：冬の農業生産体制強化事業)	1 冬野菜品目の拡大 (1) ミニ白菜、カブ	平26～27
	野菜の栽培試験(支援研究)	1 野菜の作況試験 (1) ナガイモ (2) ニンニク ア 気象及び生育経過 イ 収量及び品質	平25～平30
	野菜の除草剤、生育調整剤の開発(受託：日植調)	1 除草剤 (1) ヤマノイモ (2) ネギ、ニンジン	平26
	メッシュ農業気象データシステムの有効活用方法の検討(チャレンジ研究)	メッシュ農業気象データシステムの有効活用方法の検討	平26

(3) 病虫部

課 題	細 目 課 題	研究期間
<p>特産野菜の気象変動に対応した青森型総合病害虫防除技術の開発 (開発研究)</p>	<p>1 特産野菜に発生する病害虫の高感度診断技術の開発と気象変動に適した発生生態の解明 (1) 病害虫診断と発生実態 ア イチゴ病害の遺伝子診断と発生状況 イ ピーマンの病害の発生実態 ウ ネコブセンチュウ類の発生実態 (2) 病害虫の発生生態と防除技術 ア ダイコンのキスジノミハムシの発生消長調査 イ ダイコンのキスジノミハムシ防除に対する土壌処理剤の処理範囲の検討 ウ ダイコンのキスジノミハムシに対する各種散布剤の防除効果 エ ダイコンのキスジノミハムシに対するプリロン粒剤の防除効果(6月は種) オ ダイコンのキスジノミハムシに対するプリロン粒剤の防除効果(7月は種) カ ゴボウのネキリムシ類に対するフォース粒剤の防除効果 2 クロルピクリン土壌くん蒸剤に頼らない土壌病害虫防除技術の開発 (1) 薬剤の違いがナガイモ・ゴボウの植溝消毒に及ぼす影響 (2) 殺菌剤及び殺虫剤の植溝混和による防除効果 ア ナガイモの土壌病害虫 イ ゴボウの土壌病害虫防除効果 3 土壌微生物相診断に基づいたニンニク土壌病害虫の総合防除技術の開発 (1) 土壌施用しやすい土壌くん蒸剤の深耕と畦内処理併用の防除効果 ア 土壌くん蒸消毒と深耕の効果1 イ 土壌くん蒸消毒と深耕の効果2 4 特産野菜の優良種苗を活かすためのウイルス病害制御技術の開発 (1) ナガイモえそモザイク病制御技術の開発 ア 異なる症状のえそモザイクウイルス感染芋の品質と収量 イ 異なる症状のえそモザイクウイルス感染芋の一定温度条件下での病徴 ウ 障壁作物を利用したウイルス病防除技術 (2) 障壁植物や薬剤を活用したウイルス病の感染防止技術 ア 銅水和剤散布と障壁植物によるニンニクモザイク病再感染防止効果 5 天敵等の生物多様性を活かした減農薬栽培のための病害虫防除技術の開発 (1) 天敵など生物農薬を利用した野菜の病害虫防除法の開発 ア 夏秋どりイチゴのアザミウマ類に対する捕食性天敵アカメガシワクダアザミウマと薬剤併用の防除効果 イ ニンニクの黒腐菌核病に対するミニタンWGの効果 (2) 減農薬のための効果的な病害虫防除法の開発 ア ニンニク病害が収量・品質に及ぼす影響 イ ニンニク葉枯病菌のアゾキシストロビン剤耐性菌の確認</p>	<p>平26～30</p>
<p>ニンニク線虫被害防止技術(県重点事業「青森にんにく安心技術確立事業」)</p>	<p>1 土壌病害虫防除対策の確立 (1) 血清学的手法によるイモグサレセンチュウの検出法 (2) 遺伝子解析法等によるイモグサレセンチュウの高感度検出法</p>	<p>平26～27</p>
<p>イモグサレセンチュウ発生圃場における石灰窒素の防除効果に関する研究(受託:コフケミカル)</p>	<p>イモグサレセンチュウ発生圃場における石灰窒素の防除効果に関する研究</p>	<p>平26～27</p>

業務加工用に適したたまねぎ品種及び栽培技術の確立 (受託：農研機構)	業務加工用に適したたまねぎ品種及び栽培技術の確立	平26～30
オリジナル品種「たっこにんにく」をまもる弱毒ウイルスの利用技術開発 (受託：田子町)	オリジナル品種「たっこにんにく」をまもる弱毒ウイルスの利用技術開発	平26～30
病害虫防除農薬開発 (受託：県植防)	<p>1 主要病害に対する新農薬の防除効果</p> <p>(1) ダイコンの白さび病 (2) ダイコンの白さび病 (土壌混和) (3) ダイコンのわかば症 (4) ネギのリゾクトニア葉鞘腐敗病 (5) ネギの小菌核腐敗病 (6) ヤマノイモの青かび病 (7) ヤマノイモの葉渋病 (8) ニンニクの黄斑病 (9) ニンニクの白斑葉枯病 (10) ニンニクの葉枯病 (11) ニンニクのさび病 (12) ニンニクの春腐病 (13) ニンニクの黒腐菌核病 (土壌混和) (14) ニンニクの黒腐菌核病 (種子消毒)</p> <p>2 主要害虫に対する新農薬の防除効果</p> <p>(1) ヤマノイモのワタアブラムシ (土壌処理剤) (2) ヤマノイモのナガイモコガ (3) ダイコンのキスジノミハムシ (4) ネギのネギアブラムシ (5) ゴボウのヒョウタンゾウムシ類 (土壌処理剤) (6) ゴボウのヒョウタンゾウムシ類 (茎葉散布) (7) 露地キュウリのハダニ類 (8) イチゴのアザミウマ類 (9) ニンニクのアブラムシ類 (10) ニンニクのネギコガ</p>	平26～30
マイナー作物農薬登録 拡大事業 (県事業：マイ ナー作物農薬登録拡大事 業)	1 食用ギク灰色かび病に対するセイビアーフロアブル20の防除効果及び倍量薬害試験	平26
ヤマノイモ新品種のコ ブ線虫寄生による被害様 相の解析 (チャレンジ研 究)	ヤマノイモ新品種のコブ線虫寄生による被害様相の解析	平26
抗線虫資材の選定 (受託：農研機構)	抗線虫資材の選定	平26～30
新規還元土壌消毒技術 の開発 (受託：農研機 構)	新規還元土壌消毒技術の開発	平26～30
ニンニクにおける被覆 マルチの違いによるク ロールピクリンガス濃 度の影響 (受託：全農青森)	ニンニクにおける被覆マルチの違いによるクロールピクリンガス濃度の影響	平26～27
だいこんのキスジノミ ハムシに対するフォー ス粒剤の効果的な処理 方法の検討 (受託：ソ ンジェンダジャパン)	だいこんのキスジノミハムシに対するフォー ス粒剤の効果的な処理方法の検討	平26～27

2 試験研究概要

(1) 栽培部

ア 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術の開発

(ア) ナガイモの高品質安定生産技術の開発

a ナガイモ栽培技術改善試験

(a) 土壌消毒処理の有無と適正施肥窒素の把握

土壌消毒の有無、基肥、追肥施用量の収量に対する影響は、無追肥で減収となった他は明瞭な傾向は認められなかったが、土壌消毒条件での従来からの施肥基準である基肥窒素0.6kg/a+追肥窒素0.3kg/a×3回体系は「園試系6」においても多収で、いも形状が比較的安定していた。

(b) 高支柱栽培の適応性評価

270cmの高支柱栽培はいもの肥大を促して収量を増加させ、密植による増収効果を高めた。ただし、それらの増収効果は地力及び施肥量によって異なった。

b ニンニクの新作型開発と高品質安定生産技術の開発

(a) 珠芽を利用した新作型開発試験

珠芽から効率的に肥大促進するためには、珠芽に5℃・2週間処理を加えて植え付け、さらに秋期及び早春期のトンネル保温処理を実施することが有効であった。

(b) 品質低下要因の解明と抑制技術開発

乾燥による「煮え」等障害発生条件の把握

乾燥温度が35℃から45℃の範囲では、乾燥中のりん球減量率に大きな差はないが、乾燥温度が45℃程度では乾燥後に煮え症状が発生し、密封状態で症状が助長される。また、密封状態では35℃でも煮え症状が発生する場合があった。

(ア) 夏秋どりイチゴの高品質安定生産技術

a 良食味四季成り性イチゴ「なつあかり」の安定多収技術の確立

なつあかりは、長日処理条件下では1株当たり施肥量を1.0g(40日)+2.5g(180日)の組み合わせにすることで増収した。

b 主要四季成り性品種の好適栽培法の開発

各品種(なつあかり、信大BS8-9、すずあかね)において、土耕栽培では、換気温度設定によるハウス温度管理及び施肥方法の違いが収量に及ぼす影響は小さかったが、換気温度設定を変えることにより収穫開始時期及び収穫パターンを変えることは可能であった。

イ ナガイモの収量・品質向上に向けた施肥の改善

(ア) 「園試系6」の品種特性を発揮できる土壌・地域別施肥基準の作成(現地試験)

ながいも「園試系6」を土壌条件等が異なる県内4現地で、現地慣行施肥、野菜研緩効施肥及び野菜研慣行から可給態窒素分析分を除いた施肥で栽培し、生育経過、収量及び品質を比較した。施肥の違いにより障害発生等外観品質が異なる場合があること、野菜研慣行施肥でも地域によって収量及び外観品質に違いがあることが認められた。

(イ) 省力施肥法の検討

被覆窒素配合肥料を使用した全量基肥体系は慣行施肥体系と収量、品質はほぼ同等であった。被覆窒素配合肥料+8月12日の1回追肥体系では平いもの発生も少なく、A品収量が高まった。

(ウ) 土壌の簡易地力窒素診断法の実用性評価

パックテスト・COD法については、熱水抽出液の希釈倍率を調整することで測定精度向上の可能性が示唆された。

ウ ニンニクの流通過程での品質低下要因の解明と対策技術の確立

(ア) 氷点下貯蔵後の品質に及ぼす栽培条件等の影響

a マルチの種類、成熟度が貯蔵品質に及ぼす影響 マルチの種類、種りん片重が収穫期の早晩に及ぼす影響

ニンニク栽培に供試した3色のマルチのいずれにおいても、生球重はピークを示した後減少し、球径はほとんど減少しなかった。また、生葉数が4~5枚となった時期から裂球が増加したが、その増加程度にはマルチ色別・種りん片重別に傾向が異なっていた。

エ 良食味夏秋イチゴ「なつあかり」による青森県高付加価値技術創出の実証モデル

(ア) プレミアムなつあかりの創出

a なつあかり果実高品質化のための要因解析

なつあかりの品質のうち、硬度は、10分着色では7月以降から9月末まで、9分着色では盛夏期に、果実硬度が300gを下回り軟らかくなることから市場出荷用として可販品にはならない。糖酸比は、収穫開始から9月までは、9分着色に比べて10分着色で極めて高くなる。10月以降には9分着色でも比較的高くなる。

オ 冬の農業生産体制の強化

(ア)冬野菜品目の拡大

a ミニ白菜、カブ

トンネル被覆を行った区では軟弱徒長気味の生育となり収量も劣ったことから播種期及び被覆資材の効果的な使用方法について再検討が必要と思われた。

カ 野菜の栽培試験

(ア)野菜の作況試験

ナガイモの総収量は平年並で(441kg/a、平年比103%)、平いも多く、品質は平年より下回った。ニンニクの収量は平年を下回り(136kg/a、平年比92%)、品質は平年を上回った。

キ 野菜の除草剤、生育調節剤の開発

ヤマノイモのANK-553(改)乳剤生育期畦間処理では処理量300~400mL/10aで、NK-1101水和剤では処理量225~300g/10aで実用化可能と考えられた。

ネギのリニューロン水和剤生育期全面茎葉処理75~150g/10aで、ニンジンの播種後出芽前全面処理におけるSL-122顆粒水和剤の処理効果は200~250g/10aで実用化可能と考えられた。

(2) 品種開発部

ア 特産野菜優良品種の育成

(ア)ナガイモ優良品種の開発

a 優良品種の育成

(a)育種素材の養成

「つくなが1号」と「園試系6」を交配して得られた系統を継代した。

(b)雌株の特性調査

雌株は全て雌花が着生した。「北大雌」、「畑園雌」、「野菜雌」は「園試系6」と同等のマーカー遺伝子型を示し、「おいらせ雌」は「ネバリスター」と同じマーカー遺伝子型を示した。

(c)育成系統の栽培特性

「園試系短5号」と「あおもり短八」ではこぶいもやリング症状が多発し、密植栽培における有用性は示されなかった。

(d)遺伝資源の収集・保存

ナガイモを含むヤマイモ42系統を継代栽培し、遺伝資源として保存した。保存している11系統を茎頂培養し、その幼植物体から子いも78個を得た。

(イ)ニンニク優良品種の開発

a優良品種の育成

(a)育種素材の養成

系統間交配を実施して計355粒の種子を得た。23年採種種子からの実生株をガラス網室で養成し、14系統について次代の種球を得た。

(b)系統選抜による品種育成

「福地ホワイト」(黒石A系統)の中から選抜した有望系統を栽培試験に供試した結果、E1、E4をやや有望とした。

(c)遺伝資源の収集・保存

ウイルスフリー化された17系統の隔離栽培による維持を行うとともに新たに茎頂培養を行った15系統から次代の種球を収穫した。

(ウ)エダマメ優良品種の開発

a優良品種の育成

16組合せの人工交配を行い、種子を得た。F1~F3世代では、種子増殖を行った。F4世代では138個体を選抜し、F5世代では114個体を選抜した。

b遺伝資源の収集・保存

エダマメ等の種子24系統を保存した。

(エ)イチゴ優良品種の開発

四季成り4系統と一季成り1系統について、収量・品質を比較した結果、13と-f(一季成り)を有望とした。

イ 特産野菜原種維持増殖事業

ナガイモ、ニンニクのウイルスフリー株を維持、増殖し、生産現場における優良種苗の確保を図る目的で、ナガイモは直径7.5mm以上のむかご115kg、ニンニクはりん球と珠芽計400kgをJA全農あおもりに供給した。

「庄司系」は、「園試系6」に比べて、いも長がやや長く、いも径が細い傾向が認められた。「園試系6」は、いもの肥大はやや優ったが、平いもの発生が多かった。

ウ 「伝統野菜」活用促進事業

「筒井紅かぶ」1330g、「笹石かぶ」1325gの種子を収穫し、後代検定で形質を確認した後、それぞれ850g、880gを保存した。

エ これまでの事業/ヒト介入試験に基づく、もち小麦からの新食感食品開発

もち小麦の需要に伴う生産体制と、全国への振興、普及活動

栽培農家の確保、安定供給、全国小麦栽培地への働きかけ

(ア) 積雪メッシュデータによる栽培適地判断の検討

青森県内の気象観測地点における長期積雪期間の平年値とその再現期間を算出した。「メッシュ平年値2010」の最深積雪データ等を用いて県内の長期積雪期間の平年値の推定を試みたが、その精度は低かった。一方、地形因子を用いて推定する方が精度が高まる可能性が示唆された。

(イ) 外観と内容成分からみたもち小麦の収穫適期

出穂後積算気温からみた「もち姫」の収穫目安は850～950℃、「ネバリゴシ」では800～950℃とそれぞれ判断された。子実水分30％での子実の状態は、硬さは、指腹ではつぶせないが、爪で切れる状態であること、胚乳は硬いろう状であること、外観は飴色であることが示された。

オ 大豆「東北174号」等育成系統のわい化病検定試験

対照系統で2～4％程度の発病に留まり、検定系統の中では「刈系911号」及び「刈系912号」で発病が見られた。

カ 寒冷地におけるそば育成系統の特性評価

「階上早生」と比較して、「芽系32号」は、成熟期がやや早い、容積重が劣ることから「やや劣る」と判定した。また、その他3系統は、成熟期がやや遅いこと、または、子実重が劣ることに加え、容積重が劣ることから、「劣る」と判定した。4系統を供試し、1系統をやや有望と判定した。

キ 寒冷地におけるなたね育成系統の特性評価

地域適応性を検討するために6系統を供試し、前年と同じく「東北99号」を有望として選抜した。

ク 畑作物優良品種の選定

(ア) 畑作物優良品種の選定

a小麦優良品種の選定

「東北228号」は、短稈、大粒で容積重が大きいが、収量が少～同等であったことから、再検討と判定した。また、「東北231号」は、やや長稈、少粒で、収量が劣るが、「もち姫」とはほぼ同等であることから再検討と判定した。

b小麦系統適応性検定試験

東北農業研究センターが育成した10系統を供試し、4系統を再検討と判定した。

c大豆優良品種の選定

「シュウリュウ」を再検討と評価した。

(イ) 畑作物等原原種の維持・増殖

a畑作物等(なたね、そば)の原原種の維持及び増殖

そば品種「階上早生」を網室内で隔離栽培により増殖した。

b小豆及びエダマメ用大豆等の原原種等の維持

エダマメ「あおもり豊丸」「あおもり福丸」、小豆「大納言」、「南郷大森白小豆」、「南郷大森黒トラ」、アワ「黄粟」を栽培し原原種を維持した。

(イ) 畑作物の栽培試験

a畑作物の作況試験(小麦)

小麦の生育、収量を気象条件との関連で検討したところ、出穂期は平年より2日早い5月23日、成熟期は平年より5日早い7月8日、子実重は61.4kg/a(平年比104%)となった。

b畑作物の作況試験(大豆)

大豆の生育、収量を気象条件との関連で検討したところ、開花期は平年より1日早く、子実収量は29.9kg/aで平年比107%となった。

ケ 畑作物原種の生産・供給

「キザキノナタネ」の原種子を1,650kg、「階上早生」の原種子を1,500kg生産した。

(3) 病虫部

ア 気象変動や生物多様性に適応した特産野菜の安全・安心な病害虫管理技術の研究開発

(ア) 特産野菜に発生する病害虫の高感度診断技術の開発と気象変動に適応した発生生態の解明

a病害虫診断と発生実態

(a) イチゴ病害の遺伝子診断と発生状況

八戸産地では、炭疽病と萎凋病の発生が多く、萎黄病や線虫病は確認されなかった。

(b) ピーマンの病害の発生実態

南部町のピーマン畑でCMV、BBWV2、PVYの発生が確認された。圃場周辺に雑草が多くウイルスの伝染源となっている可能性があるため、抜き取り等の対策が必要と考えられた。

(c) ネコブセンチュウ類の発生実態

南部町のトマトから抵抗性打破系統のサツマイモネコブセンチュウと思われるネコブセンチュウが確認された。田舎館村のイチゴからイチゴセンチュウが確認された。六戸町のゴボウの根腐部からイモグサレセンチュウが多数確認された。

b病害虫の発生生態と防除技術

(a)ダイコンのキスジノミハムシ防除に対する 土壌処理剤の処理範囲の検討

ダイコンに使用できる散布剤の中では、スタークル顆粒水溶剤、パダンSG水溶剤及びハチハチ乳剤1000倍が、キスジノミハムシ幼虫による根部被害抑制効果が高い傾向が認められた。

(b)ダイコンのキスジノミハムシに対する各種散布剤の防除効果

ダイコンに使用できる散布剤の中では、スタークル顆粒水溶剤、パダンSG水溶剤及びハチハチ乳剤1000倍が、キスジノミハムシ幼虫による根部被害抑制効果が高い傾向が認められた。

(c)ダイコンのキスジノミハムシに対するプリ ロッソ粒剤の防除効果（6月は種）

ダイコンのキスジノミハムシに対するプリロッソ粒剤6kg/10aは種時播溝土壌混和は、対照のフォース粒剤と比較して効果がやや劣り、無処理と比較して効果は認められるがその程度は低かった。

(d)ダイコンのキスジノミハムシに対するプリ ロッソ粒剤の防除効果（7月は種）

ダイコンのキスジノミハムシに対するプリロッソ粒剤6kg/10aは種時播溝土壌混和の残効期間は、多発生条件下では、21日程度と思われた。

(e)ゴボウのネキリムシ類に対するフォース 粒剤の防除効果

ゴボウのネキリムシ類に対するフォース粒剤の4kg/10aは種時全面土壌混和は、対照のダイアジノン粒剤5より効果はまさり、無処理と比較して効果が高く、実用性が高い。

(イ)クロルピクリン土壌くん蒸剤に頼らない 土壌病害虫防除技術の開発

a薬剤の違いがナガイモ・ゴボウの植溝消毒に及ぼす影響

ゴボウのネグサレセンチュウ発生ほ場で、ダズメット粉粒剤とキルパーは対照のクロピク80と比較してやや劣るが無処理と比較して防除効果が認められた。

b殺菌剤及び殺虫剤の植溝混和による防除効果

(a)ナガイモの土壌病害虫

ナガイモのネグサレセンチュウ発生ほ場で、ユニフォーム粒剤とネマキック粒剤混合の植溝処理は対照のクロピク80と比較して同

等の防除効果が認められた。

(b)ゴボウの土壌病害虫防除効果

ゴボウのネグサレセンチュウと黒あざ病の混発ほ場で、モンガリット粒剤とネマキック粒剤の混合散布は、対照のクロピク80と比較してやや劣るが無処理と比較して防除効果が認められ、実用性がある。

(ウ)土壌微生物相診断に基づいたニンニク土 壌病害虫の総合防除技術の開発

a土壌施用しやすい土壌くん蒸剤の深耕と畦 内処理併用の防除効果

(a)土壌くん蒸消毒と深耕の効果1

無処理区で被害が少なく、土壌消毒の効果、深耕のイモグサレセンチュウ被害低減効果は判然としなかったが、深耕によって生産物が向上する可能性が認められた。品種間でイモグサレセンチュウの被害に差は認められなかった。

(b)土壌くん蒸消毒と深耕の効果2

粘土質土壌でもクロピク80による畦内処理の効果が認められた。深耕を丁寧に行うことでニンニクの品質・収量が向上する可能性がある。

(エ)特産野菜の優良種苗を活かすためのウイ ルス病害制御技術の開発

aナガイモえそモザイク病制御技術の開発

(a)障壁作物を利用したウイルス病防除技術

インゲンの成長はナガイモより早く、ナガイモの生育後期まで枯れずに残るため障壁として使用できる可能性が示された。

(b)異なる症状のえそモザイクウイルス感染 芋の品質と収量

供試した弱毒ウイルスは安定性に問題があり、露地栽培ではえそ症状が強くなる傾向があると思われる。

(c)異なる症状のえそモザイクウイルス感染 芋の一定温度条件下での病徴

人工気象器内で生育したK08系統は高温になるにつれて症状が軽くなる傾向が見られた。

b障壁植物や薬剤を活用したウイルス病の感 染防止技術

(a)銅水和剤散布と障壁植物によるニンニ クモザイク病再感染防止効果

ニンニクウイルスフリー種苗の栽培に銅水和剤を散布することで、アブラムシ伝搬性ウイルスの感染を低く抑えることができた。また、チューリップサビダニが畝を越えて移動

することが明らかとなった。

(イ)天敵等の生物多様性を生かした減農薬栽培のための病害虫防除技術の開発

a天敵など生物農薬を利用した野菜の病害虫防除法の開発

(a)夏秋どりイチゴのアザミウマ類に対する捕食性天敵アカメガシワクダアザミウマと薬剤併用の防除効果

スピノエース顆粒水和剤散布とアカメガシワクダアザミウマ放飼の併用は、夏秋イチゴに発生するヒラズハナアザミウマ密度を抑制し、被害果の発生を低く抑える効果が認められた。

(b)ニンニクの黒腐菌核病に対するミニタンWGの効果

ニンニクの黒腐菌核病に対するミニタンWGは、散布時に晴れ、翌日にロータリーで混和した今回の処理条件では効果が発揮できなかった。

b減農薬のための効果的な病害虫防除法の開発

(a)ニンニク病害が収量・品質に及ぼす影響

今回の試験では、ニンニクの地上部の病害は収穫物に影響を与えておらず、黒石Aについてはウイルスの感染が着色率に影響を与えている可能性が示唆された。

(b)ニンニク葉枯病菌のアゾキシストロビン剤耐性菌の確認

県内で発生するニンニク葉枯病菌に、アゾキシストロビン（商品名アミスター20フロアブル）耐性菌が発生していることが確認された。

イ マイナー作物農薬登録拡大事業

(ア)食用ギク灰色かび病に対するセイビアーフロアブル20の防除効果及び倍量薬害試験

供試したセイビアーフロアブル20の防除効果は、対照薬剤のカンタスドライフロアブルと同等で、無処理区に対しても効果は認められ、実用性はあると思われた。倍量濃度でも薬害は認められなかった。

ウ 病害虫防除農薬開発

(ア)主要病害に対する新農薬の防除効果

試験薬剤は、下記のとおりであり、いずれの剤も防除効果があり、薬害は認められなかった。

・ダイコンの白さび病に対するメジャーフロアブルの2000倍

・ダイコンの白さび病に対するユニフォーム粒剤の6kg/10a播種前作条土壌混和处理

・ダイコンのわか症に対するメジャーフロアブルの2000倍

・ネギのリゾクトニア葉鞘腐敗病に対するアミスター20フロアブルの2000倍

・ネギの小菌核腐敗病に対するNNF-0721フロアブル20の2000倍

・ヤマノイモの青かび病に対するホームイ水和剤の200倍10分間種いも浸漬及びICボルドー66D水和剤の2秒間浸漬

・ヤマノイモの葉洗病に対するベンレート水和剤の2000倍

・ニンニクのさび病に対するベンレート水和剤2000倍及びメジャーフロアブル2000倍

・ニンニクの黒腐菌核病に対するファンタジスタ水和剤9%の種子重量1%湿粉衣

・ニンニクの白斑葉枯病に対するテーク水和剤600倍、800倍

・ニンニクの葉枯病に対するシグナムWDG1500倍

(イ)主要害虫に対する新農薬の防除効果

試験薬剤は、下記のとおりであり、いずれの剤も防除効果があり、薬害は認められなかった。

・ヤマノイモのワタアブラムシに対するダントツ粒剤の6kg/10a植付時作条処理土壌混和及び9kg/10a植付時作条処理土壌混和

・マノイモのナガイモコガに対するベネビアOD4000倍

・ダイコンのキスジノミハムシに対するNC-515乳剤2000倍、3000倍

・ネギのネギアブラムシに対するハチハチ乳剤1000倍

・ゴボウのヒョウタンゾウムシ類に対するアタブロン乳剤2000倍

・キュウリのカンザワハダニに対するスパイカルEX 2000頭/10aの7～10日間隔4回放飼

・イチゴのヒラズハナアザミウマに対するパイレーツ粒剤5kg/10a株元処理

・ニンニクのネギアブラムシに対するアディオオン乳剤2000倍、ダントツ水溶剤2000倍液及び4000倍

・ニンニクのネギコガに対するアディオオン乳剤の2000倍

3 主要野菜・畑作物の生育状況

(1) 野菜

ア ナガイモ

5月26日植付けの露地普通栽培とし、供試系統は園試系6（2年子）とした。

萌芽揃期は6月28日（平年より2日早く）、植付けから萌芽揃までの日数は33日（平年より2日短い）であった。7月19日以降地上部（つる長、茎葉重）が平年を上回り、地下部も平年を

上回った。

9月以降の生育量は、地上部、地下部とも平年を上回って推移した。

総収量は、4,412kg/10a（平年比103%）、上物収量は1,349kg/a（同84%）、平いも、溝、リングはおおかく、曲がりが多かったものの、下物収量も平年より多かった（平年比：114%）。

表1 ナガイモの収量調査

種イモ	年次	総収量 (kg/10a)	上物収量(kg/10a)				下物収量(kg/10a)					
			4L-3L	2L-L	M以下	計	平	曲がり	コブ・分岐	溝・リング	その他	計
2年子	本年	4,412	912	390	46	1,349	2,022	81	552	352	57	3,064
	平年	4,294	1,177	372	55	1,604	1,302	275	598	273	243	2,690
	平年比	103	77	105	84	84	155	29	92	129	23	114

注)平年:前7か年の平均値

上物収量:JA全農あおもりやさしい出荷規格の「丸A」に相当する収量

イ ニンニク

平成25年10月4日植付けの露地普通栽培とし、供試系統は福地ホワイト（黒石A）を供試した。

りん片分化期が4月27日で平年より3日遅れた。収穫期は7月7日で平年（7月5日）より2日遅かった。7月2日の平均乾燥球重は72.8gで平

年より下回り（平年比92%）、総収量は1,362kg/10a（同92%）、上物収量が1,215kg/10a（同107%）であった。下物収量は147kg/a（同42%）で、奇形（同106%）は多かったが、裂球が少なかった（同21%）。

表2 ニンニクの収量調査

年次	収穫期 (月/日)	総収量 (kg/10a)	上物収量(kg/10a)					下物収量(kg/10a)				暦日(7月2日) 乾燥球重 (g)
			2L	L	M	S	計	奇形	裂球	その他	計	
本年	7/7	1,362	28	941	246	0	1,215	118	29	0	147	72.8
平年	7/5	1,483	180	803	142	5	1,130	112	136	105	353	79.5
平年比	+2日	92	16	117	173	0	107	106	21	0	42	92

注)平年:収量は平成21年を除く前10か年の平均値。暦日の乾燥球重は平成21、22年を除く前10か年の平均値（平成20年までは旧圃場のデータ）

上物:JA全農あおもりやさしい出荷規格のA品、下物:B、C品

(2) 畑作物

ア 小麦

平成25年9月21日に播種し、品種はネバリゴシを供試した。

出芽期は平年並みで、出芽率は90.7%だった。越冬前は10月が日照不足であったことから、生育が平年を下回った。越冬後は、圃場の消雪が平年より15日遅くなったことから、幼穂形成期は平年より4日遅い4月13日となった。その後の

気象は、高温、多照に推移し、出穂期が平年より2日、開花期が5日早まった。短稈で穂数も少なかったことから倒伏はなかった。成熟期は平年より5日早い7月8日となった。

収量構成要素は、穂数589本/m²(平年比80%)、千粒重34.6g(同101%)、一穂粒数31.1粒(同129%)、子実重61.4kg/a(同104%)となった。

表3 小麦の生育調査及び収量調査

年次	出芽期	出芽 良否	幼穂形成 期	止葉抽出 期	出穂期	開花期	成熟期	倒伏 程度	出穂期～ 成熟期所 要日数	稈長	穂長	穂数	一穂粒数	子実重
	月日		月日	月日	月日	月日	月日		日	cm	cm	本/m ²	粒/穂	kg/a
本年	9月28日	良	4月13日	5月14日	5月23日	5月29日	7月8日	0	46	83	8.0	589	31.1	61.4
平年	9月28日	良	3月31日	5月14日	5月25日	6月3日	7月13日	3.2	50	96	8.0	734	24.1	59.2
平年差・比	0日		+13日	0日	-2日	-5日	-5日		-4日	87	100	80	129	104

注) 平年:平成20～25年(6か年)の平均値(平成24年産は出芽不良によりデータから除外)
倒伏程度は、0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚 の6段階

イ 大豆

5月15日に播種し、品種はおおすずを供試した。

5月末から6月始め、7月末から8月始めの好天により、草丈・主茎長・分枝数は平年を上回ったが、開花期は平年より1日早い7月26日となった。

成熟期は平年より6日早い10月10日となった。a当たり収量は29.9kg(平年比107)となった。収量構成要素は、稔実莢数25.3莢/本(平年比88)、一莢粒数1.7粒/莢(平年比121)、百粒重は40.8g(平年比114)となった。

表4 大豆の生育調査及び収量調査

年次	開花期	成熟期	わい化病 株率	主茎長	主茎 節数	分枝 数	最下位着 莢節位高	稔実 莢数	一莢 粒数	全重	子実 重	百粒重	リットル 重
	月日	月日	%	cm	節	本/本	cm	莢/本	粒/莢	kg/a	kg/a	g	g
本年	7月26日	10月10日	0.6	75	17.8	3.4	20.6	25.3	1.7	73.8	29.9	40.8	728
平年	7月27日	10月16日	21.6	69	15.7	2.5	14.8	28.8	1.4	55.7	27.9	35.9	733
平年差・比	-1日	-6日	0	109	113	136	139	88	121	132	107	114	99

注) 平年:前6か年の平均値

平成 26 年気象表

平年：200年（H16）～ 2013年（H25）

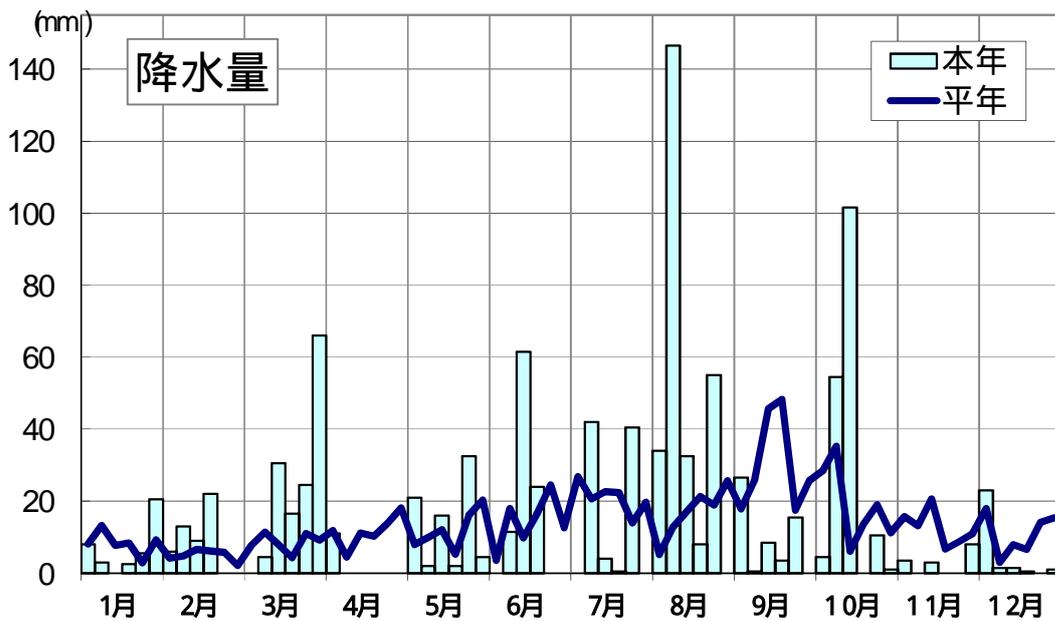
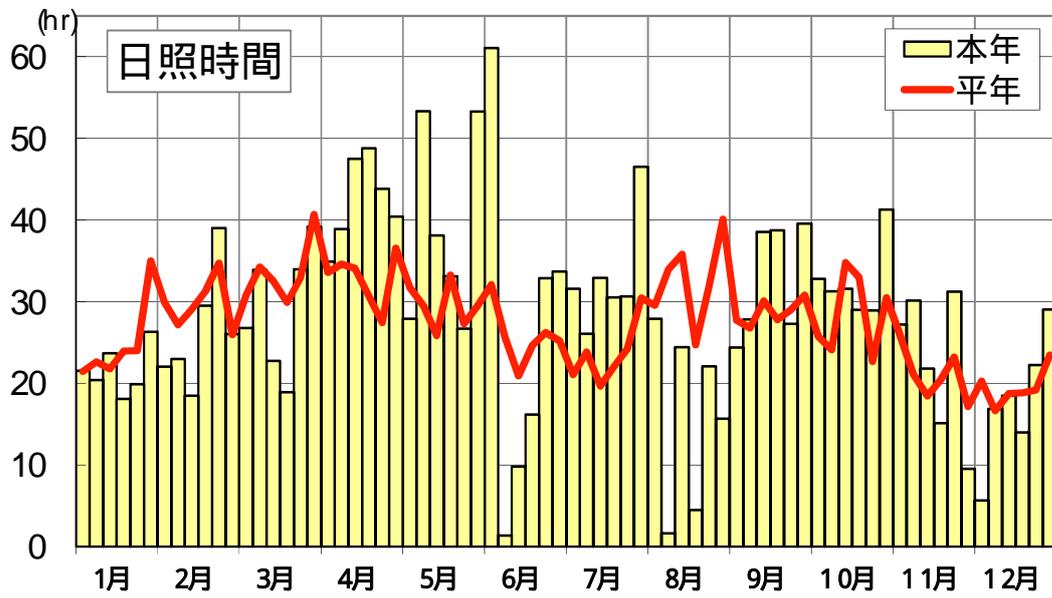
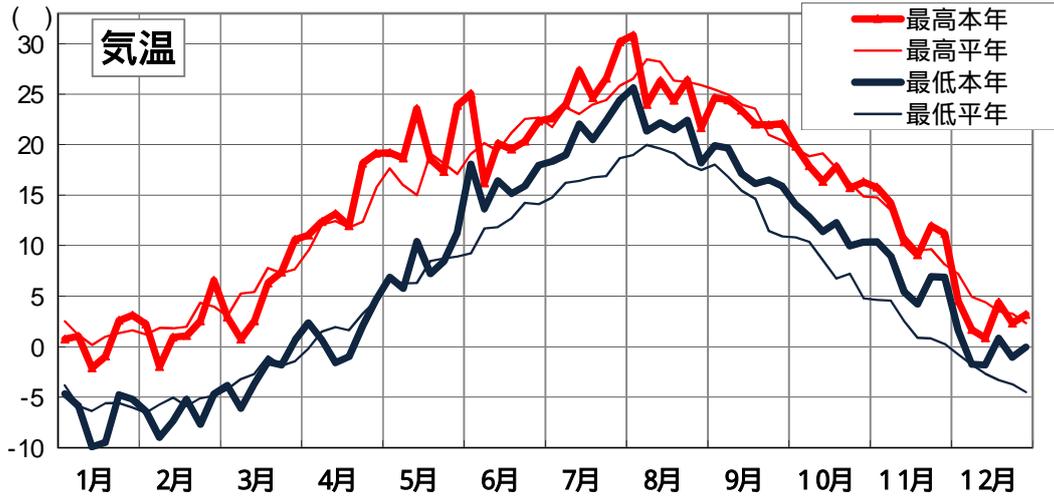
月	項目	最高気温()		最低気温()		平均気温()		降水量(mm)		日照時間(時間)	
	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1月	第1半旬	0.7	2.5	-4.7	-3.8	-1.8	-0.6	8.0	8.1	21.5	21.5
	第2半旬	1.0	1.2	-5.8	-5.9	-2.1	-2.1	3.0	13.3	20.4	22.6
	第3半旬	-2.1	0.2	-9.9	-6.4	-5.5	-2.8	0.0	7.7	23.7	21.8
	第4半旬	-0.9	1.0	-9.4	-5.6	-4.4	-2.1	2.5	8.4	18.1	24.0
	第5半旬	2.6	1.4	-4.8	-5.6	-1.1	-1.8	5.5	2.9	19.9	24.0
	第6半旬	3.1	1.6	-5.2	-6.0	-1.2	-2.0	20.5	9.3	26.3	35.0
	月平均・合計	0.7	1.3	-6.6	-5.5	-2.7	-1.9	39.5	49.6	129.9	148.8
2月	第1半旬	2.2	1.2	-6.4	-6.5	-2.2	-2.4	6.0	4.1	22.1	29.9
	第2半旬	-2.0	1.9	-9.0	-5.7	-4.7	-1.5	13.0	4.8	23.0	27.2
	第3半旬	0.9	1.8	-7.4	-5.0	-2.8	-1.4	9.0	6.6	18.5	29.0
	第4半旬	1.1	2.0	-5.2	-5.9	-2.0	-1.7	22.0	6.2	29.5	31.3
	第5半旬	2.6	4.4	-7.7	-5.1	-1.9	0.0	0.0	5.8	39.0	34.7
	第6半旬	6.6	4.0	-4.7	-4.8	1.3	-0.2	0.0	2.1	26.0	25.9
	月平均・合計	1.9	2.5	-6.7	-5.5	-2.0	-1.2	50.0	29.5	158.1	178.0
3月	第1半旬	2.9	3.0	-3.8	-4.2	-0.7	-0.6	0.0	7.7	26.8	30.8
	第2半旬	0.8	5.3	-6.1	-3.2	-2.8	1.2	4.5	11.4	33.9	34.3
	第3半旬	2.5	5.4	-3.6	-2.7	-0.4	1.5	30.5	8.0	22.8	32.5
	第4半旬	6.3	7.8	-1.5	-1.0	2.4	3.4	16.5	4.3	18.9	29.9
	第5半旬	7.4	7.3	-1.8	-1.9	3.4	2.6	24.5	11.0	34.0	33.0
	第6半旬	10.6	7.7	0.6	-1.4	5.7	3.0	66.0	9.2	39.2	40.7
	月平均・合計	5.1	6.1	-2.7	-2.4	1.3	1.9	142.0	51.5	175.5	201.1
4月	第1半旬	11.1	9.5	2.4	-0.2	6.6	4.6	11.0	11.8	34.9	33.6
	第2半旬	12.4	12.1	0.7	1.5	6.6	6.8	0.0	4.5	38.9	34.6
	第3半旬	13.2	12.4	-1.6	2.0	6.2	7.1	0.0	11.2	47.5	34.1
	第4半旬	12.0	11.8	-1.0	1.6	5.9	6.6	0.0	10.3	48.8	30.7
	第5半旬	18.2	12.4	2.1	3.3	10.2	7.8	0.0	13.8	43.8	27.4
	第6半旬	19.1	15.7	4.7	4.6	12.4	9.9	0.0	18.2	40.4	36.5
	月平均・合計	14.3	12.3	1.2	2.1	8.0	7.1	11.0	69.7	254.3	196.9
5月	第1半旬	19.2	17.7	6.9	6.7	12.9	12.2	21.0	7.9	27.9	31.8
	第2半旬	18.7	16.0	5.8	6.3	12.2	10.9	2.0	9.9	53.3	29.5
	第3半旬	23.6	15.0	10.4	6.3	16.6	10.5	16.0	12.1	38.1	25.8
	第4半旬	18.6	19.1	7.2	8.5	12.6	13.5	2.0	5.3	33.1	33.2
	第5半旬	17.3	18.1	8.5	8.8	13.0	13.2	32.5	16.2	26.7	27.3
	第6半旬	23.9	17.1	11.3	8.9	17.3	12.8	4.5	20.3	53.3	29.5
	月平均・合計	20.2	17.2	8.4	7.6	14.1	12.2	78.0	71.7	232.4	177.1
6月	第1半旬	25.1	19.1	18.1	9.2	18.1	14.0	0.0	3.6	61.1	32.1
	第2半旬	16.2	20.1	13.6	11.7	13.6	15.4	11.5	18.0	1.4	25.7
	第3半旬	20.1	19.4	16.4	11.8	16.4	15.1	61.5	9.8	9.8	20.9
	第4半旬	19.6	21.2	15.2	12.7	15.2	16.6	24.0	16.5	16.2	24.6
	第5半旬	20.3	22.6	15.9	14.2	15.9	18.0	0.0	24.5	32.9	26.2
	第6半旬	22.3	22.7	18.0	14.1	18.0	18.1	0.0	12.7	33.7	25.2
	月平均・合計	20.6	20.8	16.2	12.3	16.2	16.2	97.0	84.9	155.0	154.8

平成 26年気象表

平年：2004年（H16）～ 2013年（H25）

月	項目	最高気温 ()		最低気温 ()		平均気温 ()		降水量 (mm)		日照時間 (時間)	
	半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	第1半旬	22.6	21.7	18.4	14.8	18.4	17.8	0.0	26.9	31.6	21.1
	第2半旬	23.9	23.7	19.0	16.2	19.0	19.5	42.0	20.6	26.1	23.8
	第3半旬	27.4	23.0	22.1	16.4	22.1	19.3	4.0	22.6	32.9	19.6
	第4半旬	24.6	24.0	20.5	16.8	20.5	20.1	0.5	22.4	30.5	22.0
	第5半旬	26.6	24.4	22.4	16.9	22.4	20.1	40.5	14.0	30.6	24.2
	第6半旬	30.2	25.8	24.4	18.7	24.4	21.7	0.0	19.8	46.5	30.5
	月平均・合計	25.9	23.8	21.1	16.6	21.1	19.7	87.0	126.2	198.3	141.2
8月	第1半旬	30.8	26.5	25.6	19.0	25.6	22.4	34.0	5.2	27.9	29.5
	第2半旬	24.0	28.5	21.4	20.0	21.4	23.6	146.5	12.9	1.6	33.9
	第3半旬	26.3	28.2	22.2	19.6	22.2	23.4	32.5	17.2	24.4	35.8
	第4半旬	24.4	26.3	21.5	19.1	21.5	22.3	8.0	21.4	4.5	24.7
	第5半旬	26.4	26.2	22.4	18.1	22.4	21.8	55.0	19.0	22.1	31.9
	第6半旬	21.7	25.9	18.2	17.5	18.2	21.3	0.0	25.7	15.7	40.1
	月平均・合計	25.6	27.0	21.9	18.9	21.9	22.5	276.0	101.1	96.2	196.0
9月	第1半旬	24.6	25.5	19.9	18.0	19.9	21.5	26.5	17.9	24.4	27.8
	第2半旬	24.4	25.0	19.6	16.8	19.6	20.6	0.5	25.8	27.8	26.8
	第3半旬	23.4	24.0	17.1	15.5	17.1	19.4	8.5	45.7	38.5	30.1
	第4半旬	22.0	23.6	16.1	14.7	16.1	19.0	3.5	48.3	38.7	27.8
	第5半旬	22.0	21.0	16.5	11.5	16.5	16.1	15.5	17.5	27.3	29.0
	第6半旬	22.1	20.4	15.9	10.9	15.9	15.6	0.0	25.7	39.6	30.8
	月平均・合計	23.1	23.2	17.5	14.6	17.5	18.7	54.5	180.7	196.3	172.2
10月	第1半旬	19.8	19.6	14.1	10.8	14.1	15.1	4.5	28.4	32.8	25.8
	第2半旬	17.9	18.9	12.9	10.4	12.9	14.5	54.5	35.2	31.3	24.1
	第3半旬	16.4	19.1	11.4	8.6	11.4	13.8	101.5	6.1	31.6	34.8
	第4半旬	17.8	17.7	12.3	6.8	12.3	12.1	0.0	13.7	29.0	33.0
	第5半旬	15.7	16.2	10.0	7.2	10.0	11.8	10.5	19.0	28.9	22.7
	第6半旬	16.3	14.9	10.4	4.8	10.4	9.9	1.0	11.2	41.3	30.5
	月平均・合計	17.3	17.7	11.8	8.1	11.8	12.9	172.0	113.5	194.9	170.7
11月	第1半旬	15.8	14.8	10.4	4.6	10.4	9.6	3.5	15.8	27.2	25.9
	第2半旬	14.2	13.6	9.0	4.6	9.0	9.0	0.0	13.1	30.1	21.1
	第3半旬	10.4	11.0	5.4	2.5	5.4	6.7	3.0	20.6	21.8	18.4
	第4半旬	9.1	9.5	4.2	0.9	4.2	5.0	0.0	6.7	15.1	20.4
	第5半旬	12.0	9.7	6.9	0.8	6.9	5.1	0.0	8.7	31.2	23.2
	第6半旬	11.2	8.1	6.9	0.3	6.9	4.0	8.0	11.0	9.5	17.2
	月平均・合計	12.1	11.1	7.2	2.3	7.2	6.6	14.5	75.8	135.0	126.3
12月	第1半旬	4.5	7.2	1.6	-0.8	1.6	3.2	23.0	17.9	5.7	20.3
	第2半旬	1.7	5.0	-1.7	-1.8	-1.7	1.4	1.5	2.9	16.9	16.6
	第3半旬	0.9	4.4	-1.8	-2.7	-1.8	0.8	1.5	7.9	18.5	18.8
	第4半旬	4.4	3.5	0.8	-3.3	0.8	0.2	0.5	6.6	14.0	18.8
	第5半旬	2.3	3.3	-1.0	-3.7	-1.0	-0.1	0.0	14.2	22.2	19.2
	第6半旬	3.2	2.3	-0.1	-4.5	-0.1	-1.0	1.0	15.4	29.1	23.4
	月平均・合計	2.8	4.3	-0.4	-2.8	-0.4	0.8	27.5	64.9	106.3	117.1

平成 26年気象図



1 試験研究成果・普及情報

(1)普及技術情報

区 分	事 項 名
指導参考資料	ながいも「園試系6」と「庄司系」の特性比較
	にんにくのおんぶ症りん片とその発生条件
	やまのいもの青かび病による種いも腐敗防止法
	ニンニク葉枯病のアゾキシストロピン水和剤（アミスター 20フロアブル）耐性菌の発生と防除上の留意点
農薬関係資料	にんにくの白斑葉枯病、さび病に対するTPN水和剤（ダコニール1000）の使い方
	にんにくの白斑葉枯病に対するマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤）の使い方
	ねぎのべと病に対するトルフェンピラド乳剤（ハチハチ乳剤）の使い方
	ねぎのべと病に対するキャプタン・有機銅水和剤（オキシラン水和剤）の使い方
	ねぎのべと病に対するマンジプロパミド水和剤（レーバフロアブル）の使い方
	ねぎのべと病に対するジメトモルフ水和剤（フェスティバル水和剤）の使い方
	にんじんの黒葉枯病に対するベンチオピラド（アフェットフロアブル）の使い方
	にんじんの黒葉枯病に対するマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤）の使い方
	にんじんの黒葉枯病に対する銅・バチルスズブチリス水和剤（クリーンカップ）の使い方
	だいごんのキスジノミハムシに対するメタフルミゾン水和剤（アクセルフロアブル）の使い方
	ねぎのネギアザミウマに対するフルフェノクスロン乳剤（カスケード乳剤）の使い方
	やまのいものナガイモコガに対するフルベンジアミド水和剤（フェニックス顆粒水和剤）の使い方
	キャベツのヨトウムシに対するスピノサド・メトキシフェノジド水和剤（ファルコンエースフロアブル）の使い方
	ねぎのアザミウマに対するピリフルキナゾン水和剤（コルト顆粒水和剤）の使い方
	ごぼうのネキリムシ類に対するテフルトリン粒剤（フォース粒剤）の使い方
	にんにくのイモグサレセンチュウに対するメチルイソチオンアネート・D-油剤（デイトラベックス油剤）の畦内処理における使い方
	にんにくのイモグサレセンチュウに対するカーバムナトリウム塩剤（キルパー）の畦内処理における使い方
	ながいもの除草剤セトキシジム乳剤（ナブ乳剤）の使い方
ながいもの除草剤プロメトリン・S-メトラクロール水和剤（コダールS水和剤）の使い方	

(2) 刊行物

- ア 平成 25年度 試験成績概要集 (平成 26年 3月、60部発行)
- イ 野菜研ニュース 10 (平成 26年 7月、ホームページ)
- ウ 野菜研ニュース 11 (平成 27年 3月、ホームページ)
- エ イモグサレセンチュウ防除のためのマルチ畦内処理法 (平成 27年 3月、2,000部)

(3) 学会研究会等報告

著者、発表者	題名	雑誌名等 (号、ページ)	発表月	投稿先	論文/講演要旨
伊藤篤史、庭田英子	光源の違いが四季成り性イチゴ'なつあかり'の花芽形成に及ぼす影響	東北農業研究 . 67.	H26.12	東北農業試験研究協議会	論文
落合祐介、柳野利哉	ヤマノイモ品種「つくなが1号」の催芽方法と効果	東北農業研究 . 67.	H26.12	東北農業試験研究協議会	論文
細田洋一、岩瀬利己、吉田康徳	ジベレリン処理がナガイモのむかごの着生量及び終了に及ぼす影響 (第3報)	平成 26年度園芸学会東北支部会	H26.8	園芸学会東北支部	講演要旨
新藤潤一	ダイコンのキスジノミハムシに対する各種薬剤の防除効果	北日本病害虫研究会報	H26.12	北日本病害虫研究会	論文
對馬由記子・山下一夫	ナガイモほ場におけるネグサレセンチュウ及び根腐病に対する各種防除薬剤の効果	北日本病害虫研究会報	H26.12	北日本病害虫研究会	講演要旨
加賀友紀子・山下一夫	ニンニクの病害に対する殺菌剤の効果と収量への影響	北日本病害虫研究会報	H26.12	北日本病害虫研究会	講演要旨
山下一夫	青森県におけるニンニク白斑葉枯病菌及び葉枯病菌の薬剤耐性菌の出現	第 25回殺菌剤耐性菌研究会	H27.1	殺菌剤耐性菌研究会	講演要旨
加賀友紀子・山下一夫	青森県におけるニンニク葉枯病菌の Qo 剤に対する感受性	日本植物病理学会報	H27.2	日本植物病理学会東北支部会	講演要旨
新藤潤一	夏秋イチゴ栽培におけるアカメガシワクダザミウマの利用法	第 59回日本応用動物昆虫学会講演要旨集	H27.3	日本応用動物昆虫学会	講演要旨
伊藤篤史、大久保直美、庭田英子、岩瀬利己	香気成分解析による四季成り性イチゴ'なつあかり'の香りの評価	園芸学会平成 27 年度春季大会	H27.3	日本園芸学会	講演要旨

(4) 野菜研究所試験研究成果発表会

日時 平成27年2月23日(月)

場所 野菜研究所 大会議室(六戸町大字犬落瀬字柳沢91)

参集範囲

(独)種苗管理センター、農家、農業関係団体、各市町村、県(農林水産部各課、各地域県民局地域農林水産部、病害虫防除所、営農大学校)、産技センター(関係農林部門研究所)

発表内容

- ・ながいもの系統比較
品種開発部 部長 柳野 利哉
- ・にんにくのおんぶりん片とその発生条件
栽培部 主任研究員 古川 尊仁
- ・にんにくに発生した葉枯病菌の薬剤耐性菌とその対策
病虫部 研究員 加賀 友紀子
- ・だいこんのキスジノミハムシに対するテフルトリン粒剤(フォース粒剤)の効果的な処理方法
病虫部 研究管理員 新藤 潤一

(5) 一般雑誌・普及誌・ラジオ

ア 雑誌「あおもり農業」

題名	巻号	頁	所属	氏名
ニンニクに発生した白斑葉枯病とその防除	65-4	28-30	病虫部	山下一夫
四季成り性イチゴ「なつあかり」への電照(長日処理)について	65-5	47-59	栽培部	伊藤篤史
ニンニクの収穫後シート乾燥における通風方式について	65-6	54-56	栽培部	伊藤篤史
深耕とマルチ畦内土壌くん蒸消毒を組み合わせたニンニクのイモグサレセンチュウ被害軽減効果	65-8	52-54	病虫部	對馬由記子
ニンニク珠芽利用の勧め	65-11	52-55	栽培部	古川尊仁
寒締めハウレンソウのマルチ栽培と貯蔵について	65-12	54-56	栽培部	伊藤篤史

イ ラジオ

月・日	発信先	発信内容	所属	氏名
4.12	RAB「農事放送」	にんにくの春先からの栽培管理について	栽培部	庭田英子
5.12	RAB「農事放送」	ながいもの高品質・多収生産技術について	栽培部	鎌田直人
8.23	RAB「農事放送」	夏に寒締め(かんじめ)栽培(さいばい)の勧め	栽培部	庭田英子
11.23	RAB「農事放送」	寒じめ栽培のハウス管理のポイントについて	栽培部	庭田英子
1.11	RAB「農事放送」	ねぎの春まき栽培の育苗管理について	栽培部	伊藤篤史

ウ テレビ

月 .日	発信先	発信内容	所属	氏名
6月	ABA	夏イチゴ「なつあかり」研究会発足について	栽培部	伊藤篤史
6月	RAB	夏イチゴ「なつあかり」研究会発足について	栽培部	伊藤篤史

エ 新聞

月 .日	発信先	発信内容	所属	氏名
6月	デーリー東北	夏イチゴ「なつあかり」研究会発足について	栽培部	伊藤篤史
6月	河北新報	夏イチゴ「なつあかり」研究会発足について	栽培部	伊藤篤史
2月	デーリー東北	研究成果発表会の取材	栽培部	伊藤篤史
翌年 4月 取材 3月	日本農業新聞	イチゴ「なつあかり」他、野菜研の研究について	品種開発部 栽培部	柳野利哉 伊藤篤史

3 表彰

受賞者	月日	受賞名	概要（又は理由）
品種開発部 前嶋敦夫	12月 12日	日本植物調節剤研究協会功労者表彰	長期にわたって畑作除草剤・生育調節剤の適用性試験等に携わった功績が認められたもの

2 研修 技術協力

(1) 農業ドクター派遣

担当部所	担当者	内容	日付	依頼者
品種開発部	前嶋敦夫	なたね原種生産のための栽培管理方法	H25.10~ H26.8	農事組合法人赤沼生産組合
	細田洋一	にんにくの小珠芽を利用した原種生産	H25.10~ H27.8	全農青森県本部

(2) 講師派遣

担当部所	担当者	内容	日付	依頼者
所長	岩瀬利己	新規就農者ステップアップ研修	6月～2月	営農大学校
	岩瀬利己	エコ農業学校	7月	エコ農業学校
栽培部	庭田英子 伊藤篤史	にんにく講習会	5月	つがる市
	庭田英子	六戸町小中学校教諭研修	8月	六戸町社会科研究会
	伊藤篤史	“三陸で夏イチゴを作ろう” in 田野畑	10月	岩手大学三陸復興推進機構
	伊藤篤史	大切な人に贈りたくなる商品づくり研修会	2月	青森県総合販売戦略課
	伊藤篤史	にんにく講習会	3月	七戸町
	伊藤篤史	「夏秋いちご『信大BS8-9』 第二回研究会	3月	株式会社アグリス
品種開発部	前嶋敦夫	市川地区水稲・小麦・大豆栽培講習会	2月	三八地域県民局
	前嶋敦夫	階上早生そばと地域ブランド化推進セミナー	2月	階上町
病虫部	山下一夫 對馬由記子	にんにく講習会	5月	つがる市
	山下一夫 新藤潤一	病害虫及び防除に関する講義・実習	7月	営農大学校
	山下一夫 新藤潤一	病害虫及び防除に関する講義・実習	9月	営農大学校
	對馬由記子 加賀友紀子			
	山下一夫、 加賀友紀子	S S H 研究内容に関する指導	7月～8月	八戸北高校
	山下一夫、 新藤潤一	病害虫及び防除に関する講義	11月～12月	営農大学校
	山下一夫	にんにく講習会	11月	JA津軽みらいときわにんにく部会
	新藤潤一	S S H 研究内容に関する指導	12月	八戸北高校
	新藤潤一	栽培技術研修会	6月	JA八戸大根・葉菜専門部
	新藤潤一	エコ農業学校	7月	エコ農業学校
	山下一夫	日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	1月	日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会
	山下一夫	いちご栽培研修会	1月	八戸いちご生産組合
	山下一夫	パワーアップ研修会	1月	(株)パセリー菜
新藤潤一	新規生物農薬アカメガシワクダアザミウマの効果的な利用方法」	3月	日本応用動物昆虫学会	

(3) 審査員派遣

担当部所	担当者	内容	日付	依頼者
所長	岩瀬利己	にんにく原種圃検査会	H26.6.5	全農あおもり
	岩瀬利己	ながいも原種検査会	H26.8.1	全農あおもり
	岩瀬利己	にんにく共進会審査会	H26.10.28	田子町
栽培部	古川尊仁	堆きゅう肥品評会審査基準検討会	H26.6.11	全農あおもり
	古川尊仁	堆きゅう肥品評会審査基準検討会	H26.8.20	全農あおもり
	庭田英子	園芸施設共済部会	H27.3.20	青森県農業共済連合会
	岩瀬利己 柳野利哉 鎌田直人	ナガイモ共進会審査会	H27.1.15	全農あおもり
品種開発部	柳野利哉 細田洋一	にんにく原種圃審査会	H26.4.10	全農あおもり
	柳野利哉 細田洋一	にんにく優良種苗検査	H26.5.1	全農あおもり
	細田洋一	にんにく優良種苗検査	H26.5.14	全農あおもり
	柳野利哉 細田洋一	にんにく原種圃審査会	H26.6.5	全農あおもり
	落合祐介	ながいも原種検査会	H26.8.1	全農あおもり
	柳野利哉	畑作物共済部会（ホップ）	H26.11.21	青森県農業共済連合会
	柳野利哉	畑作物共済部会（大豆）	H27.2.24	青森県農業共済連合会
	柳野利哉	畑作物共済部会（大豆）	H27.3.18	青森県農業共済連合会
	病虫部	山下一夫 加賀友紀子	にんにく優良種苗検査	H26.5.1
山下一夫 加賀友紀子		にんにく優良種苗検査	H26.5.14	全農あおもり
山下一夫 加賀友紀子		にんにく原種圃審査会	H26.6.5	全農あおもり

(4) 会議・研究会

日付	場所	主催者	担当者	内容
6.9~ 10	盛岡市、花巻市、一関市	東北農業研究センター	前嶋敦夫	東日本麦立毛検討会
6.17	五所川原市、つがる市	東北農業研究センター	柳野利哉、前嶋敦夫	小麦新品種候補「東北228号」現地検討会
6.17	六戸町	県農産園芸課	庭田英子、細田洋一	ニンニク技術研修会
6.25	羽後町	東北農業研究センター	前嶋敦夫	東北ソバ研究会(ソバフォーラム)
6.17	六戸町	県農産園芸課	庭田英子、細田洋一	ながいも技術研修会
7.15~ 16	郡山市	東北農業研究センター	庭田英子、細田洋一	東北農業試験研究推進会議 野菜夏期研究会
8.28	青森市	県農産園芸課	柳野利哉	第1回主要農作物種子の原種生産等に係る連絡会議
8.5	六戸町	県農産園芸課	庭田英子、鎌田直人	ながいも栽培講習会
8.21	六戸町	県農産園芸課	庭田英子	加工・業務用野菜生産技術研修会
8.28	弘前市	東北農業研究センター	庭田英子、伊藤篤史	北日本イチゴ研究会 園芸学会東北支部
9.1	六戸町	県農産園芸課	山下一夫、新藤潤一、加賀友紀子	イモグサレセンチュウ研究 連携会議
9.8	六戸町	J A 全農あおもり	岩瀬利己、古川尊仁、伊藤篤史	にんにく共進会審査
9.3	盛岡市	東北農業研究センター	前嶋敦夫、落合祐介	麦・なたね品種系統検討会
10.9	六戸町	県農産園芸課	庭田英子、鎌田直人、落合祐介	ながいも若手塾集合研修
10.22	田野畑村	岩手大学三陸復興推進機構	庭田英子、伊藤篤史	田野畑村夏秋イチゴ勉強会
11.11	青森市	県農産園芸課	柳野利哉	第2回主要農作物の原種生産等に係る連絡会議
11.20	青森市	県農産園芸課 県構造政策課	柳野利哉	「攻めの農林水産業」推進本部構造政策部会及び農産園芸部会合同会議
11.9	秋田市	秋田県	柳野利哉	伝統野菜全国シンポジウム in秋田
12.1	青森市	J A 全農本所営農センター	庭田英子、山下一夫、落合祐介	平成26年度加工・業務等タマネギ研究会
12.22	六戸町	県農産園芸課	古川尊仁、伊藤篤史	冬の農業担当者会議
12.16	青森市	県農産園芸課	柳野利哉、前嶋敦夫	小麦、そばの生産振興に係る連絡会議

日付	場所	主催者	担当者	内容
1.15	七戸町	J A 全農あおもり	岩瀬利己、柳野利哉、鎌田直人	ながいも共進会
1.16	七戸町	J A 全農あおもり	岩瀬利己、庭田英子、山下一夫、柳野利哉、鎌田直人、落合祐介	ながいもフォーラム
1.26	青森市	県農産園芸課	庭田英子	「攻めの農林水産業」推進本部部会
1.29~ 30	盛岡市	東北農業研究センター	前嶋敦夫、落合祐介	東北農業試験研究推進会議畑作物部会
1.29~ 30	盛岡市	東北農業研究センター	山下一夫、對馬由記子、加賀友紀子	東北農業試験研究推進会議生産環境部会
1.30	盛岡市	東北農業研究センター	鎌田直人	東北農業試験研究推進会議農業気象研究会
2.2~ 3	盛岡市	東北農業研究センター	庭田英子、柳野利哉、鎌田直人、細田洋一	東北農業試験研究推進会議野菜花き部会
2.19	盛岡市	東北農業研究センター	前嶋敦夫	小麦「東北 229号」試食会
2.19	東京都	一般社団法人日本施設園芸協会	古川尊仁	第36回「施設園芸総合セミナー・機器資材展」
2.20	青森市	東青地域県民局地域農林水産部	岩瀬利己、柳野利哉	東青地域の伝統野菜「筒井紅かぶ」「笹石かぶ」の試食会
2.24	青森市	県農産園芸課	柳野利哉、前嶋敦夫	大豆の生産振興に係る連絡会議
2.24	盛岡市	東北農業研究センター	落合祐介	「東北・北陸地域における新作物開発によるタマネギの端境期生産体制の確立」研究成果発表会
2.25	仙台市	東北農業研究センター	前嶋敦夫	東北そば研究会
3.5	十和田市	上北地域県民局	岩瀬利己	「攻めの農林水産業」推進上北地方本部会議
3.10	十和田市	上北地域県民局地域農林水産部	鎌田直人	上北野菜産地力向上会議
3.12	八戸市	県農産園芸課	庭田英子	にんにく研修会
3.16	八戸市	三八県民局地域農林水産部	岩瀬利己	八戸平原地域営農推進協議会
3.20	青森市	東青県民局地域農林水産部	柳野利哉、細田洋一	伝統野菜生産技術検討会

(5) 視察受け入れ

部所	案内件数	来所者数	視察、見学内容
所長、総務	2	6	イチゴ、ナガイモ、ニンニク栽培技術
栽培部	7	59	イチゴ、ナガイモ、ニンニク栽培技術
品種開発部	1	7	小麦、なたね、ナガイモ品種開発
病虫部	5	85	病害虫全般
計	15	157	

(6) 研修受け入れ

(1) 新規任用普及指導員専門技術向上研修

受け入れ部所	研修部門	人数	期間
栽培部 品種開発部 病虫部	野菜	3名	26.6.23~ 7.4 26.11.17~ 11.28

職員研修

1 国内研修

職・氏名	所属部所	研修内容	派遣先	派遣期間
主査 工藤達哉	栽培部	甲種防火管理新規講習	十和田消防署	H26.7.3~ 4
研究員 伊藤篤史	栽培部	野菜の品質とおいしさ	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	H26.10.31
主査 工藤達哉	栽培部	特別管理廃棄物管理責任者講習	県環境保全課	H26.12.4
研究管理員 前嶋敦夫	品種開発部	鳥インフルエンザ防疫研修	県畜産課	H26.12.11

2 県・産技センター研修

職・氏名	研修内容	派遣先	派遣期間
主査 工藤達哉 主査 河村里子	財務会計システム操作研修	青森産技	H26.4.18
研究管理員 前嶋敦夫	主幹研修	自治研修所	H26.6.2~ 3
研究管理員 鎌田直人 主査 河村里子	メンタルヘルス及び安全衛生研修会	青森産技安全衛生推進委員会	H26.7.18
研究管理員 鎌田直人	研究部長クラス職員研修	青森産技人材育成委員会	H26.7.31
研究員 加賀友紀子	ホームページ講習会	青森産技	H26.8.20
研究管理員 前嶋敦夫 研究員 落合祐介 研究員 伊藤篤史	研究員クラス研修	青森産技	H26.8.22
研究員 加賀友紀子 研究員 落合祐介 研究員 伊藤篤史	研究員クラス研修	青森産技	H26.10.22
研究管理員 鎌田直人 研究員 伊藤篤史 研究管理員 前嶋敦夫	気象と災害 (本部セミナー)	青森産技	H26.10.27
所長 岩瀬利己 研究管理員 前嶋敦夫	青い森の良品発掘フォーラム	青森産技	H26.10.31
研究管理員 前嶋敦夫	研究所巡回研修	青森産技	H26.11.17
所長 岩瀬利己 研究管理員 細田洋一 研究管理員 前嶋敦夫 研究管理員 新藤潤一	人材育成特別講演会	青森産技	H26.11.12
研究管理員 細田洋一 研究員 伊藤篤史 主任研究員 古川尊仁 研究員 加賀友紀子	統計解析・実験計画法研修	青森産技	H26.11.27~ 28
総括研究管理員 庭田英子 総括研究管理員 山下一夫	人事評価研修	青森産技	H26.12.2
所長 岩瀬利己 品種開発部長 柳野利哉	人事評価研修	青森産技	H26.12.3
研究管理員 前嶋敦夫	食品加工における官能評価研修	青森産技 農産物加工研究所	H26.12.4
研究管理員 伊藤篤史	気象の正しい理解と利活用	青森産技 農林総合研究所	H26.12.5
研究管理員 鎌田直人 研究管理員 前嶋敦夫 研究員 細田洋一 研究員 落合祐介	次世代イノベーター人材育成セミナー特別講演会	青森産技人材育成委員会	H27.2.13
研究管理員 細田洋一 研究員 伊藤篤史 研究管理員 前嶋敦夫	実験計画法研修	青森産技 農林総合研究所	H27.3.18
総括研究管理員 庭田英子 研究員 落合祐介 総括研究管理員 山下一夫 研究員 加賀友紀子	研究倫理研修	青森産技	H27.3.26

3 野菜研究所独自研修

項目	研修内容	講師	研修期間
野菜研セミナー	予算執行、文書管理など	主査 河村 里子	H26.5.21
野菜研セミナー	救命講習、消防訓練	六戸消防署	H26.9.5
野菜研セミナー	メッシュ農業気象データ活用セミナー	研究員 伊藤篤史	H27.2.23

種苗の生産と配付

1 作物の原原種の採種

種 類	品 種	面積 (a)	採種量 (kg)	備考 採種場所等
そば	階上早生	3	2	野菜研究所

2 作物の原種の採種

(1) 原種種子の生産

種 類	品 種	面積 (a)	採種量 (kg)	備考 採種場所等
なたね	キザキノナタネ	190	1,650	野菜研究所
そば	階上早生	150	1,500	野菜研究所

3 種苗等の配付

(1) 種苗の配付

種 類	品 種	数量 (kg)	配 付 先
そば	階上早生	500	青森県農産物改良協会
なたね	キザキノナタネ	2,000	青森県農産物改良協会
ながいも	園試系6	115 むかご	全農あおもり
にんにく	福地ホワイト (黒石A系統)	400 りん球 珠芽	全農あおもり

注：旧年産の種子も含む。

V 総 務

1 位置・土地・建物

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91

北緯 40° 38′

東経 141° 21′

標高 53m

土地 3,557 a
 建物敷地 138 a
 畑 206.6 a
 道路・その他 1,353 a
 建物 9,177㎡

2 所掌事務・分掌事務

(1) 所掌事務

- ア 野菜及び畑作物の試験研究に関すること。
- イ 野菜及び畑作物の種苗の育成及び配布に関すること。

(2) 栽培部の分掌事務

- ア 野菜研究所の庶務に関すること。
- イ 野菜の栽培改善の試験研究に関すること。
- ウ 野菜に係る農業機械及び農業施設の利用及び改善の試験研究に関すること。
- エ 野菜の施肥改善、作物栄養の試験研究に関すること。
- オ 野菜の鮮度保持及び貯蔵の試験研究に関すること。

(3) 品種開発部の分掌事務

- ア 野菜及び畑作物の品質改良の試験研究に関すること。
- イ 野菜の品種の適応性等の試験研究に関すること。
- ウ 野菜の種苗生産に関すること。
- エ そば、なたねの原原種の生産及び原種の増殖に関すること。

(4) 病虫部の分掌事務

- ア 野菜の病害虫防除の試験研究に関すること。

3 組織・職員

(1) 組織・職員数

人員：職員26名（プロパー職員6名、派遣職員13名、非常勤職員5名）

区分	研究職員	事務職員	技能技師	技能専門員	非常勤職員	計
所長	1					1
栽培部 研究 庶務・業務	4	※2	3	1.0(2名)	2 1	6 7
品種開発部	4				1	5
病虫部	4				1	5
計	13	※2	3	1	5	24

※農産物加工研究所と兼務

4 事務分担

(1) 所長

特 命 事 項	職 名	氏 名
1 所の管理、運営の総括に関する事	所 長	岩瀬 利己

(2) 栽培部（研究）

総括研究管理員（部 長）

庭田 英子

分 担 事 務	主 担	副 担
1 栽培部の総括に関する事 2 渉外、指導及び研修全般に関する事 3 青森にんにく安心技術確立事業のうち貯蔵品質に関する事 4 野菜の貯蔵技術に関する事 5 加工・業務用野菜に関する事	総括研究管理員 (栽培部長) 庭田 英子	研究管理員 (副部長) 鎌田 直人 主任研究員 古川 尊仁 研究員 伊藤 篤史
1 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術のうちナガイモに関する事 2 ながいも産地生産力レベルアップ事業に関する事 3 野菜の作況試験及び生産情報の編集に関する事 4 気象観測・気象災害に関する事	研究管理員 鎌田 直人	部 長 庭田 英子 研究管理員 古川 尊仁 研究員 伊藤 篤史
1 青森ブランド野菜の高品質安定生産技術のうちニンニクに関する事 2 冬の農業生産体制強化事業に関する事 3 野菜の生育調節剤・除草剤に関する事 4 作物栄養、土壌管理に関する事	主任研究員 古川 尊仁	部 長 庭田 英子 研究管理員 鎌田 直人 研究員 伊藤 篤史
1 青森ブランド野菜販売力強化のための新作型開発研究のうち夏秋イチゴに関する事 2 涼しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証に関する事 3 冬の農業省エネ型・産地力強化事業のうち寒締め栽培に関する事 4 野菜の施設栽培の指導及び研修に関する事 5 野菜の機械及び機械化に関する事	研究員 伊藤 篤史	部 長 庭田 英子 研究管理員 鎌田 直人 主任研究員 古川 尊仁
1 試験研究の補助に関する事	非常勤労務員 福田 妃都美 佐藤 渚	

分 担 事 務	主 担	副 担
1 所内及び部間の調整に関すること 2 人事評価に関すること 3 行事予定の管理に関すること 4 労働安全衛生に関すること 5 情報公開及び個人情報保護等に関すること 6 セクハラ相談に関すること	総括研究管理員 庭田 英子	主 査 工藤 達哉 主 査 河村 里子
1 予算執行管理に関すること 2 印章の管守に関すること 3 収入に関すること 4 支出契約決議に関すること 5 財産及び物品の管理に関すること 6 車両の配車等に関すること	主 査 工藤 達哉	主 査 河村 里子 非常勤事務員 四戸 久美子
1 職員の服務に関すること 2 職員の福利厚生に関すること 3 労働安全衛生に関すること 4 非常勤職員等に関すること 5 庶務関係の報告に関すること	主 査 河村 里子	主 査 工藤 達哉 非常勤事務員 四戸 久美子
1 文書の收受、発送及び保管に関すること 2 服務関係書類の整理に関すること 3 物品の管理の補助に関すること 4 経理事務の補助に関すること 5 復命書及び旅行管理簿の整理に関すること	非常勤事務員 四戸 久美子	主 査 工藤 達哉 主 査 河村 里子
1 農場運営方針の推進に関すること 2 耕作作業の改善・合理化に関すること 3 農場員の作業指導に関すること 4 農場機械等の整備及び管理に関すること	技能技師 山本 勝浩 沼畑 至宏 相坂 和幸	
1 車両の整備に関すること	主査 工藤 達哉	技能技師 山本 勝浩 沼畑 至宏 相坂 和幸
1 庁舎内外の清掃に関すること	技能専門員 丹内 とも	

分 担 事 務	主 担	副 担
1 品種開発部の総括に関すること 2 農場管理委員会に関すること 3 品種開発・種苗生産の渉外、指導及び研修等に関する こと 4 ナガイモ新品種「あおもり短八」「つくなが1号」の普及 推進に関すること 5 伝統野菜活用促進事業に関すること 6 畑作物作況調査（大豆）に関すること	部長 柳野 利哉	研究管理員 （副部長） 細田 洋一 主任研究員 前嶋 敦夫
1 ニンニク優良品種開発に関すること（選抜） 2 特産野菜原原種維持増殖事業に関すること（ニンニク） 3 イチゴ優良品種の開発に関すること 4 ナガイモ収集保存に関すること 5 ニンニク収集保存に関すること	研究管理員 細田 洋一	部 長 柳野 利哉 研究員 落合 祐介
1 エダマメ優良品種開発に関すること 2 畑作物優良品種の選定に関すること 3 畑作物原原種・原種の生産・供給に関すること 4 ソバ育成系統特性評価に関すること 5 もち性小麦の生産振興に関すること 6 畑作物作況調査に関すること（小麦）	主任研究員 前嶋 敦夫	研究管理員 細田 洋一 研究員 落合 祐介
1 ナガイモ優良品種開発に関すること 2 ナガイモ雌株の特性調査に関すること 3 特産野菜原原種維持増殖事業に関すること（ナガイモ） 4 ナタネ育成系統特性評価に関すること 5 大豆わい化病抵抗性系統の特性評価に関すること	研究員 落合 祐介	部 長 柳野 利哉 主任研究員 前嶋 敦夫

病 虫 部

総括研究管理員（部長）

山下 一夫

分 担 事 務	主 担	副 担
1 病虫部の総括に関する事 2 青森にんにく安心技術確立事業のうち土壌病害防除対策の確立研究に関する事 3 特産野菜の病害のうち診断技術と防除に関する事 4 新農薬開発試験（殺菌剤）に関する事 5 病害虫防除の指導及び研修等に関する事	部長 山下 一夫	研究管理員 （副部長） 新藤 潤一 主任研究員 對馬 由記子 研究員 加賀 友紀子
1 天敵等を利用したイチゴ害虫の防除技術の開発に関する事 2 ダイコンのキズジノミハムシなど特産野菜害虫の発生生態の解明及び防除技術に関する事 3 新農薬開発試験（殺虫剤）に関する事 4 虫害防除の指導及び研修等に関する事	研究管理員 新藤 潤一	部長 山下 一夫 主任研究員 對馬 由記子
1 ニンニク土壌病害虫のうちイモグサレセンチュウの診断技術と防除に関する事 2 土壌くん蒸消毒に替わる特産野菜の土壌病害虫防除技術に関する事 3 新農薬開発試験（殺線虫剤）に関する事 4 病害及び線虫害防除の指導及び研修等に関する事	主任研究員 對馬 由記子	部長 山下 一夫 研究管理員 新藤 潤一
1 特産野菜のウイルス病防除技術に関する事 2 特産野菜減農薬栽培のための病害虫防除に関する事 3 新農薬開発試験（殺菌剤）に関する事	研究員 加賀 友紀子	部長 山下 一夫 主任研究員 對馬 由記子
1 病虫部の業務の補助に関する事	非常勤労務員 吉田 善枝 上村 文子	

5 平成26年度予算

(1) 全体予算（決算額）

（単位：千円）

目・細目	26年度 決算額	左 の 財 源		
		国庫	その他	県交付金
研究業務費	5,123			5,123
研究費交付金事業費	9,105			9,105
受託研究費	14,851		14,851	
法人調整費	220			220
管理運営費	32,661			32,661
職員人件費	138,345			138,345
計	200,305		14,851	185,454

(2) 研究業務費（開発研究、支援研究）

区分	整理番号	分類	研究課題名・事業名	期間		H26予算額(千円)		
				始	終	予算	収入	交付金
開発	野Ⅱ-1	(2)イ①	青森ブランド野菜販売力強化のための新作型開発	26	30	981	0	981
開発	野Ⅱ-2	(1)イ④	特産野菜優良品種の育成	26	30	1,052	0	1,052
開発	野Ⅱ-3	(3)イ②	気象変動や生物多様性に適応した特産野菜の安全・安心な病害虫管理技術の研究開発	26	30	1,696	0	1,696
チャレンジ			メッシュ農業気象データシステムの有効活用の検討	26	26	200	0	200
小計						3,929	0	3,929
支援	農Ⅱ-101		農作物の生育状況等に関する調査	26	30	61	0	61
支援	農Ⅱ-102		本県に適する優良品種の選定	26	30	283		283
支援	農Ⅱ-103		農作物の種苗等生産	26	30	705		705
支援	農Ⅱ-104		遺伝資源の維持・収集	26	30	145		145
小計						1,194		1,194
計								5,123

(3) 競争的資金研究

No.	研究課題名	実施期間	金額 (千円)	委託元
1	SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)「次世代農林水産業創造技術」「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発	H26～30	3,400	(独)農研機構中央農業研究センター
2	これまでの事業/ヒト介入試験に基づくもち小麦からの新食感食品開発	H25～27	500	青森県立保健大学
3	業務加工用に適したタマネギ品種及び栽培技術の開発事業費	H26～30	2,366	独)農研機構中央農業研究センター
計			6,266	

(4) 受託研究・補助事業(国・自治体)

No.	研究課題名	実施期間	金額 (千円)	委託元
1	「たっこにんにく」をまもる弱毒ウイルスの利用技術開発	H24～28	750	田子町
2	青森にんにく安心技術確立事業	H26～27	7,156	農産園芸課
3	ながいも産地生産力レベルアップ事業	H26～27	1,949	農産園芸課
4	冬の農業生産体制強化事業	H26～27	650	農産園芸課
5	なつあかり高付加価値技術創出実証事業	H26～27	4,500	総合販売戦略課
6	大豆「東北174号」等育成系統のわい化病検定	H25～26	200	東北農業研究センター
7	寒冷地におけるそば育成系統の特性評価	H25～26	194	東北農業研究センター
8	寒冷地におけるなたね育成系統の特性評価	H26～27	210	東北農業研究センター
9	「南部太ねぎ」の特性に係る栽培試験	H26～27	70	南部町
計			15,679	

(5) 受託研究(民間・団体等)

No.	研究課題名	実施期間	金額 (千円)	委託元
1	新農薬の実用化試験	H26	7,303	(社)青森県植物防疫協会
2	新植物調節剤実用化試験	H26	432	(財)日本植物調節剤研究協会
3	イモグサレセンチュウ発生圃場における石灰窒素の防除効果の検討	H26～27	300	コープケミカル(株)
4	にんにくにおける被覆マルチの違いによるクロールピクリンガス濃度の影響に関する研究	H26～27	250	全農あおもり
5	だいこんのキスジノミハムシに対するフォース粒剤の効果的な処理方法の検討	H26	300	シンジェンタジャパン(株)
計			8,585	

(6) 青森県産業技術センター委員会

委員会	委員
バイオテクノロジー推進委員会	山下一夫
広報委員会	古川尊仁
商品づくり委員会	前嶋敦夫
商品PR委員会	柳野利哉

VI 圃場利用図 (平成26年度春)

平成26年4月14日作成

